

ムーアカデミー通信



Aichi Kaisho Forest Center News Letter vol.60 Autumn & Winter 2025

愛・地球博記念公園で185日間にわたり開催されていた愛・地球博20祭も9月25日に閉幕しました。あいち海上の森センターでも20祭連携イベントを実施してきました。大勢の方にご参加いただき誠にありがとうございました。

なお、写真展示は12月25日まで募集を延長しました。また、スタンプラリーは記念品がなくなるまで期間延長して実施します。

引き続きご参加をお待ちしております。



海上の森写真展示

写真展示記念品
(スマホスタンド)スタンプラリー記念品
(キーホルダー)スタンプラリー&
万博当時の建物は今？クイズ

今号のトピックス

- ・海上の森散歩
慣用句、ことわざ、故事成句 (植物編) (2 P)
- ・海上の森はいま
セトモノタイムトリップ (2 P)
- ・この人
～愛知万博から20年を迎えて～ 浦井 巧さん (3 P)
- ・センター職員随想リレー
語りべの一言 (3 P)
- ・職場研修
おかざき自然体験の森、豊田市自然観察の森 (4 P)
- ・海上の森ミニセミナー
海上の森の哺乳類 (あにまるず) (4 P)

お知らせ

3市合同消防訓練が行われました！

11月21日(金)、瀬戸市、豊田市、長久手市の3市による合同消防訓練が海上の森センター(敷地内駐車場及び遊歩道)で実施されました。



海上の森散歩

自然を題材とした慣用句、ことわざ、故事成句はたくさんあります。今回は、里山でよく見られる植物に関するものを探してみました。

○松

- ・門松は冥途の旅の一里塚（めでたくもあり、めでたくもなし）：新年の玄関先に立てられる門松は、考えようによっては、あの世への旅路で毎年一里ずつ死に近づいてゆくことを示すもの。



○梅

- ・梅は百花の魁：まだまだ寒い時期に、他の花に先駆けて一足先に花をつけ春を告げること。



○桃

- ・桃李もの言わず：桃李の花の美しさに惹かれて黙っていても人が集まってくることから、徳望のある人物には自然に人々が慕ってくること。
- ・桃源郷：俗世を離れた人々が平和に暮らす別天地。

○柳

- ・柳は緑、花は紅：春になると柳は緑色の葉をつけ、桜は紅の花をつけることから、美しい春景色をたとえた成句。天然のままで人の手が入っていない様子や物事に自然の理法が備わっていることのたとえとしても使われます。
- ・柳に風：自然に逆らわずうまく対応すること。
- ・柳の下のだじょう：一度良いことがあっても、繰り返して良いことが起こるとは限らないこと。



○紅葉

- ・紅葉に置けば紅の露：白い露も紅葉の上に落ちると赤く見えるように、置かれた環境により外見が変化することのたとえ。



参考文献 槌田満文. 四季ことわざ辞典. 株式会社 東京堂出版, 2002年(再販), 375P.

海上の森はいま

○セトモノタイムトリップを実施しました！

今年は愛・地球博20周年ということで当センターでも様々な催しを行いました。その一環として、愛知県陶磁美術館との連携イベント「セトモノタイムトリップ—モリの時間、ツチの時間、ヒトの時間—」を9月20日から11月17日の期間中に実施し、47名の方にご参加いただきました。

海上の森は、かつて人の生活のための燃料として山の伐採が進みはげ山となり、そこから人の手で豊かな自然に回復した歴史がありますが、現在は手入れが間に合っておらず健全な森林にするためには森林整備（除伐）が必要となっております。

森林整備は少しずつ進めておりますが「発生した伐採木を活用したい！」と考えたとき、瀬戸の歴史を振り返って「やきものの燃料にしてはどうだろう」ということからこのイベントは始まりました。



セトモノタイムトリップでは、陶磁美術館に全面協力していただき、森林整備（雑木の伐採及び薪の採集）、やきものの材料、成型、焼成、窯入れ、窯出しを実施しました。

やきものの材料となる土は人類史が始まるよりはるか昔からつくられ、燃料となる木は長い年月をかけてできた森から採集し、いま私たちの手でやきものが完成する。そんな時の流れに思いを馳せる（タイムトリップする）イベントとなったのではないかと思います。



この人！～愛知万博から20年を迎えて～ 浦井 巧さん

あいち海上の森フォーラム実行委員会
事務局長 浦井 巧

去る9月15日に、あいち海上の森フォーラム実行委員会の主催で「海上の森」をテーマに「愛・地球博20周年記念シンポジウム」をモリコロパークで開催しました。

私もパネリストとして参加し、あいち海上の森センターの開設前後のことを改めて振り返り「海上の森」に関して、数多くの検討会や準備会合などが開催され、多くの議論を経て、取り組みの基本や今の姿が出来上がっていることに気づかされました。

「人と自然の共生国際フォーラム」は、万博の剰余金を活用して開催された事業ですが、終了後それを継承して実施している、海上の森フォーラムも今年で9年目を迎えました。

年1回のシンポジウムをメインとして、海上の森課題研究者の募集・関連団体等の顕彰事業・写真募集事業などを展開してきました。

シンポジウムでは、人と自然の共生について、様々な視点からの講演や、意見交換などで議論しましたが、答えはなかなか見出せない永遠のテーマであります。

「海上の森」は、今も多くの人々が散策や体験活動などのために訪れており、いろんな形で活用されており、人と自然の共生を実践している場ではないかと思います。

今後もこれを継続していくためには、海上の森の保全・管理のあり方と人づくり、

そしてそのシステムづくりが必要だと感じています。

そこで1つ提案します。「海上の森での地域通貨による里山保全システム」です。

「海上の森」でのみ通用する地域通貨（「海上通貨」仮称）を発行し、里山保全のための森の手入れとか農地の保全活動に参加された人に、1日で1海上通貨を差し上げ、例えば、3海上通貨で収穫祭に参加でき、里でとれた収穫物と交換できるといったシステムです。

これにより、だれでも楽しく気軽に活動に参加でき、参加者を増やすとともに、参加のモチベーションを上げるという効果を期待するものです。

20周年を迎え、是非一つのツールとして考えていただきたいと思います。



センター職員随想リレー 語りべの一言

海上の森センターに赴任して半年になります。以前海上の森センターに勤務したことがありますので出戻りです。

半年勤務しての感想ですが、昨年までの職場は名古屋の栄でしたので、環境の変化に改めて戸惑っています。

例えば通勤ですが、昨年まで駅から1分ほどでしたので、ほとんど歩く必要がありませんでしたが、今は駅から30分ほど歩きます。

日差しの強い夏はサングラスが欠かせません。紫外線を防ぐ帽子も必須です。

一方退勤時は、最近のような日没が早い時期は早々に真っ暗になりますので足元を照らす懐中電灯が欠かせません。クマ鈴も一応持っています。

こうした思いもよらぬ環境の変化ですが、相変わらずの海上の森の姿に懐かしさを感じつつ日々勤務しています。（H. I）

職場研修

○海上の森センター職場研修を行いました！

近隣の類似施設を訪問・見学し、施設職員と意見交換をしました。

①おかざき自然体験の森

施設紹介：里山を活用した自然体験、環境保全活動、環境教育を市民と協働で行っている岡崎市の施設。

実施日：令和7年10月8日（水）

研修成果：指定管理者制度による民間運営の良い点、多様な協働団体との取り組みを進める姿勢等、大変参考になり有意義な体験でした。



②豊田市自然観察の森

施設紹介：身近な自然と触れ合うことにより、自然を守り、自然に学ぶための豊田市の環境学習施設。

実施日：令和7年11月18日（火）

研修成果：市内小学校（4年生）の環境学習の見学及び森林・自然環境の管理整備、指定管理者・運営体制、調査研究、利用状況等についてご教示いただき、大変参考になりました。



各施設の職員、関係者の皆様方には、お忙しい中対応していただき、感謝申し上げます。

海上の森ミニセミナー

○海上の森ミニセミナーを開催しました！

題目：海上の森ミニセミナー第40回

海上の森の哺乳類（あにまるず）

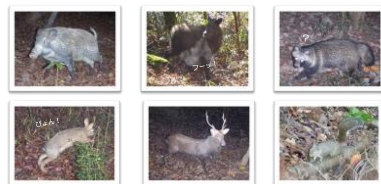
～直近10年間の調査結果からみてきたこと～

日時：令和7年11月30日（日）13：30～15：30

場所：あいち海上の森センター 3階研修室

内容：海上の森では、モニタリングサイト1000里地調査をはじめ哺乳類の調査を毎年実施しています。今回は、モニタリングサイト1000里地調査の過去10年間の調査結果から見てきたことを中心に、海上の森の哺乳類について紹介しました。

復活！海上の森ミニセミナー 第40回 海上の森の哺乳類 ～10年間の調査からみてきたこと～



海上の森では、モニタリングサイト1000里地調査をはじめ哺乳類の調査を毎年実施しています。今回は、モニタリングサイト1000里地調査の過去10年間の調査結果からみてきたことを中心に、海上の森の哺乳類について紹介しました。

海上の森にはどんな哺乳類がいるのでしょうか？たくさん写真や映像を受けてご紹介しますので、ぜひお気軽にご参加ください！



開催状況



哺乳類の痕跡、設置した自動撮影カメラ等

- 日時 令和7年11月30日（日）13時30分～15時30分まで
（受付開始：13時00分）
- 場所 あいち海上の森センター 3階研修室
（瀬戸市吉野町304-1）
- 話題提供 石原裕太（あいち海上の森センター非常勤職員 自然環境調査担当）
- 参加申込 不要。時間までに会場にお越しください。（無料）
※参加者多数の場合は、抽選席を出て対応しますが、全席の収容可能人数を上回る場合は、先着順で受付を打ち切る場合もございます。
※恶劣天候等により中止となる場合もございます。ご来場前にホームページで「イベント等中止情報」のご確認をお願いします。
- 主催 あいち海上の森センター（☎0561-86-0606）

久しぶりの開催でしたが、多くの方にご参加していただきありがとうございました。。

編集後記

ここ最近、クマ出没・被害がトップニュースとなる日が多い。今のところ海上の森での確実な情報はありますが、近隣地域では目撃、被害情報が出ています。動植物との出会いを楽しみながら、安心してウォーキングできる環境であって欲しいと思います。

編集・発行 あいち海上の森センター（ムーアカデミー）

発行日 2025年12月吉日

〒489-0857 瀬戸市吉野町304-1

TEL: 0561-86-0606 FAX: 0561-85-1841

E-mail: kaisho@pref.aichi.lg.jp

URL: <https://www.pref.aichi.jp/soshiki/kaisho/>

あいち海上の森センターホームページでカラー版を見ることができます。

< QRコード >



ホームページ